

中国人の海外旅行ブームに減速感

◆2017年の中国人の海外旅行は1.4億人（前年比15%増）の予想だが

中国旅行局などのデータによると中国人の年間海外旅行客（延べ人数）は、15年1.17億人、16年1.22億人（前年比4%増）となり17年はさらに1.4億人（同15%増）へ増加するとしている。日本の観光政策へ及ぼす影響も大きい、中国人旅行客の主な海外旅行先の過去5年間の推移を表したものが下記の表である。

中国人の主な海外旅行先と旅行者数

単位：千人

	香港	前年比	マカオ	前年比	台湾	前年比	韓国	前年比	タイ	前年比
2016年	42,778	▲ 6.7%	20,454	0.2%	3,473	▲ 16.2%	8,068	34.8%	8,757	9.7%
2015年	45,842	3.0%	20,411	▲ 4.0%	4,144	5.0%	5,984	▲ 2.3%	7,981	72.1%
2014年	47,248	16.0%	21,252	14.1%	3,948	38.7%	6,127	41.6%	4,636	0.0%
2013年	40,745	16.7%	18,632	8.4%	2,837	11.2%	4,327	52.5%	4,637	66.4%
2012年	34,911	24.2%	16,902	4.6%	2,552	45.0%	2,837	27.8%	2,787	61.9%

	米国*	前年比	ベトナム	前年比	シンガポール	前年比	日本	前年比
2016年	2,936	13.3%	2,697	51.4%	2,864	36.0%	6,374	27.6%
2015年	2,591	18.3%	1,781	▲ 8.5%	2,106	22.3%	4,994	107.3%
2014年	2,188	21.0%	1,947	2.1%	1,722	▲ 24.1%	2,409	83.3%
2013年	1,807	23.0%	1,908	33.5%	2,270	11.6%	1,314	▲ 7.8%
2012年	1,474	35.0%	1,429	0.8%	2,034	29.0%	1,425	36.6%

出所：各国、地域の観光局のデータをもとにARC作成

*2016年の米国のデータは第3四半期までの分を年間に換算

14年に台湾と韓国が前年比で、それぞれ38.7%、41.6%と急成長したが15年には伸びが鈍化している。これに対し日本は13年の減少（12年の尖閣問題での両国関係の悪化）の反動で14年に急成長し、さらに円安の追い風を受け、「爆買い」という新語まで生み出した15年に急伸した。しかし16年は前年比27.6%増と、伸びが鈍化している。

◆政治に左右される中国人海外旅行客

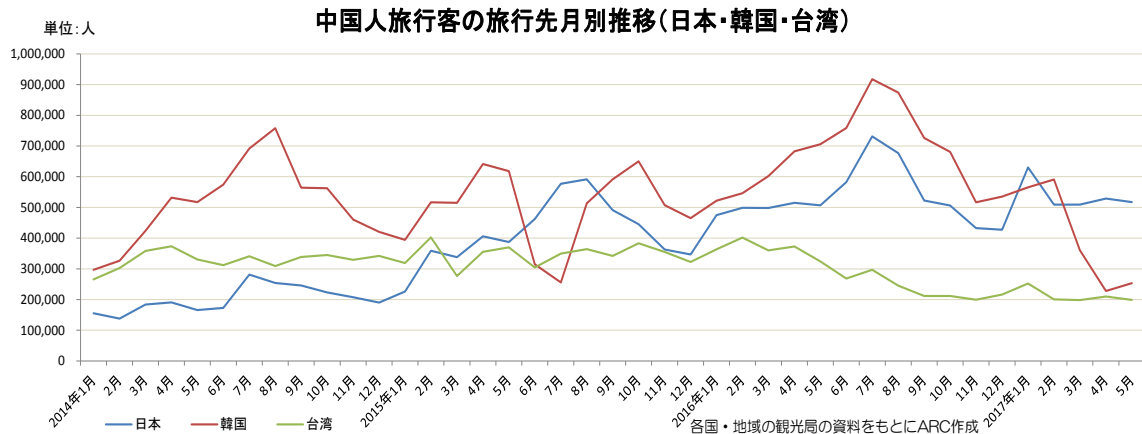
台湾は08年に国民党の馬英九政権が中国人観光客の受け入れを解禁し、それ以降旅行客は増加を続けてきた。1日あたりの受入人数も11年に4,000人、15年に5,000人へと増加させてきたが、16年1月の民進党の蔡英文政権発足後は、2月の春節時の4万人をピークに減少傾向が続き、16年は前年比16%の大幅減となった。17年に入ってからは2月が20万人（前年同月比50%減）となりそれ以降は低調なままだ。

韓国への旅行客も北朝鮮の核兵器開発に対応するためのTHAAD（高高度ミサイル防衛システム）配備に反対する中国政府が、韓国への団体旅行の販売を中止さ

ハイライト

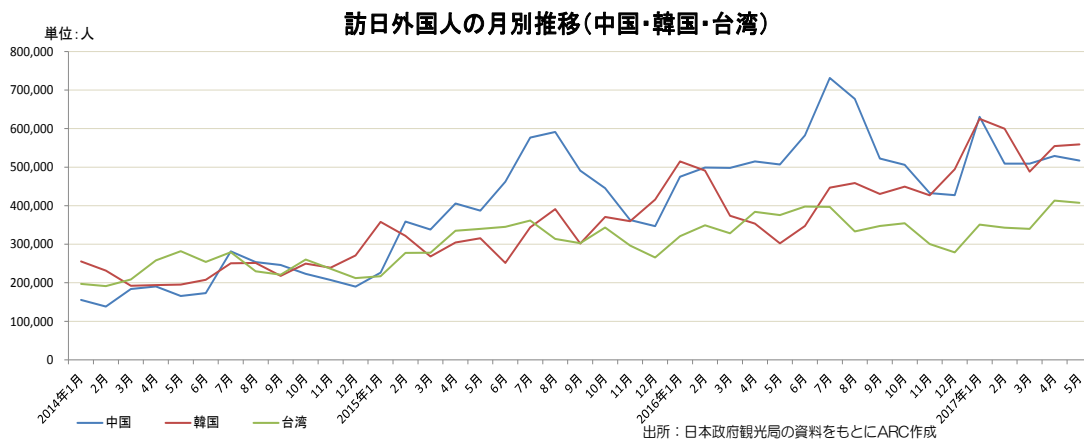
せたこともあり、17年3月以降の数字は36.1万人（同40%減）、4月22.8万人（同67%減）、5月25.3万人（同64%減）という大幅減が続いている。

訪日中国人旅行客数も17年は1月の春節以降、2月50.9万人（同2%増）、3月50.9万人（同2%増）、4月52.9万人（同3%増）、5月51.7万人（同2%増）となり、1～5月累計で269.5万人（前年同期比8%増）にとどまっている。



◆日本などへの中国人の海外旅行ブームに減速感も

16年に訪日旅行客は2,400万人を超えた。国別にみると、トップは637万人（前年比28%増）の中国で、2位が509万人の韓国（同27.2%増）、3位が台湾の416.8万人（同13.3%増）だったが、17年1～5月期は韓国が282.7万人（前年同期比39%増）と首位になっている。



中国人旅行客数については、17年夏の数字で日本旅行の急成長期が過ぎたかどうかを判断できそうだ。急拡大してきた中国人の海外旅行ブームだが、国内消費同様、これまでの拡大に変化の兆しが現われているのかもしれない。【森山博之】